

みんなで語る会報告書

- 開催日時 : 平成28年11月22日(火)(19時00分~20時30分)
- 開催場所 : 丹波校区公民館
- 参加者数 : 【市民】30人、【市職員】市長ほか9人、【総計】40人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 地方創生について
- 4 意見交換
- 5 地域代表あいさつ
- 6 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

軽井沢は避暑地として有名で、別荘を造ったり住んだりする人もいる。反対に、指宿は山川の峠から開聞岳の町の方へ至るあの一帯を避寒地として宣伝すれば、興味を持って指宿に住んでみたいという方々や、老後の保養の土地としても十分見込みがあると思う。

それと、テレビで紹介されていた事例であるが、千葉県のあるまちでは養老院も兼ねた大きな総合病院を建てて、世界の一流の医者を20人ぐらい呼んでいた。中は一流ホテルのような造りで、研修医が400人集まっていた。また、出入りも自由で、いろいろな店があり外に行かなくてもよい。お金持ちは少々高い所でも来たがる。主に福岡や鹿児島だろうが、全国をターゲットに検討してみてはどうか。

<市長>

出張の折に視察を申し込んだが、順番待ちで行けなかった。そのような老健施設は、指宿で楽しんで老後生活するという極めていい方法だと思います。尾下牧場の跡地にそのようなものを造ろうというある病院の計画もあったが、3.11の地震や熊本地震があつたりして頓挫した。

指宿で生活をしたいという人が都会から来る可能性は非常に高いので、行政と民間と一緒に実現できるように頑張りたい。

【市民】

指宿は観光を中心に進めてきたが、人口が横ばいから減ってきている。霧島は増えているか、とんとんである。企業がないと、指宿は発展しないのではないか。観光だけでなく、起業の誘致もしなければ駄目だと思う。指宿で暮らそうと思っても、子どもたちの勤める所はない。

また、指宿には素晴らしい温泉や世界に誇る砂むし温泉もあるので、ベッドタウンでもよいのではないだろうか。

<市長>

私も何回か企業訪問をしているが、企業誘致で1番重要なことは交通網である。霧島は高速道路沿いにある。鹿児島の天文館まで行くのに、混んだら1時間40分掛かる。国道226号線、指宿スカイライン、そして高速につなぐ道路をどうするのか。指宿は地理的に非常に不利である。

高速道路や新幹線が通り地理的に有利となった出水では、NEC、パイオニア、ソニーの工場ができて、2,000人ぐらい雇用していた。しかし、生産の拠点を外国に移し全て閉鎖された。やはり、地元根付いた企業、または地元出身の社長で、地元のために地域貢献という形で頑張る

ような企業を探さなければならない。山川の三光機械は素晴らしい売上げで、毎年、100万円単位でふるさと納税もして下さる。

また、極洋という水産会社が山川に会社を造り、売上げは年間8億である。できてから1年半ぐらいが経ち、20数人の雇用も生まれている。山川のかつおという切っても切れないものがある。

今後は、オクラや豆を使った6次産業といった農業に関する企業の立地や誘致をするという方法もあるかもしれない。企業誘致については、頑張っていきたい。

【市民】

魅力のあるまち、住んでいる人が楽しいまちということが大事だと思う。しかし、新しい人が転居して来ても、表札がなくお互いの名前もわからない。楽しい地域となるように、全家庭で表札を付けてはどうだろうか。

<市長>

公民館長等、いろいろな方々の意見を聞いてみたい。子どもたちはネームを裏返して名前が分からないようにして帰るなど、世の中が世知辛くなった。信頼できる地域となれば、ここに住んでよかったという地域になるかもしれない。色々な問題をクリアしてから、表札のことなどを考えていきたい。一つの地域づくりの案として、貴重な意見をいただいた。

【市民】

昔と比べて、産婦人科のベッド数が少ないような気がする。産婦人科がしっかりしていないと、妊娠もし辛いんですよ。

それと、指宿は家賃が高いのではないだろうか。小学校の先生から、指宿は家賃が高いので鹿児島から通っていると聞いたこともある。家賃のことも考えてほしい。

<市長>

なくなった産婦人科の病院もある。指宿医療センターの産婦人科もなくなり、これではいけないと市の担当が九州大学に行った。そして、市から1,700万円ぐらい、南九州市もいくらか出して産婦人科医に来てもらっている。230ぐらいの出産数があり、1回当たり10万円程度でできて安いものである。出産に必要な麻酔医など他の医師もそろっており、経営も非常に安定している。安心して産めるということは住みたい条件の一番だと思うので、これからも南九州市とともに続けていきたい。

それと、家賃の問題については、いい家が多いのか結構高いようである。特に、若い先生方は給料のこともあり、一つの問題であるかもしれない。市ではどうすることもできないので、またいろいろな場を出してみたい。

【市民】

昭和30年代から40年代にかけての新婚ブームの頃、新婚を対象にした記念植樹が開聞岳の麓やいろいろな所で行われていたようだ。その後40~50年が経ち、記念に植えた木を見に来たところ、植えた場所はある程度わかるが、跡形がなくがっかりしたという話を聞いた。そこで、現在、市が所有している土地でもいいので、市の事業として各旅館やホテル等にも周知し、もう1度観光客に記念植樹をしてもらってはどうか。

それと、知林ヶ島はせつかく一周できるようになっているのにトイレがなく、一周回っても海がほとんど見えない。トイレの設置や海の見える場所が3~4か所でもできれば、本当に素晴らしい知林ヶ島になるのではないか。

最後に、市が一生懸命頑張っているヘルシーランドの地熱発電のことについて、説明をお願いしたい。

<産業振興部長>

知林ヶ島にトイレがないことについては、渡島者から苦情が来ることもある。砂州ができる時には、渡島を指導する職員2人をシルバー人材センターにお願いしており、トイレがないので渡る前に芝生広場のトイレを利用するよう呼びかけをしている。夏場には、キャンプ村にもトイレが2か所ある。

現在、環境省が全国にある国立公園のうち、8か所を重点的に整備しようという話がある。知林ヶ島関係では、トイレや船を接岸する施設、そして大雨で遊歩道が壊れることのないよう抜本的な改良を要望しているところである。もうしばらく待てば、一定の方向性が見えてくると思う。

また、海の見える場所については、チリンズベルのある展望台からは田良岬方向を見ることはできる。国立公園区域内であるため伐採もなかなかできないが、小島方向にもそのような休憩施設がおかれたものできないか相談したい。国立公園であるため環境省の許可をもらわなければならないが、粘り強く話をしながら整備を進めていきたい。

<市長>

開聞山麓には、岩崎産業が一周道路を造る計画である。颯娃を通って釜蓋神社に抜けるといったような一周道路になりそうだが、国立公園の2種指定地ということで木を切ることもできない。先日、岩崎社長が来られて国立公園の網を取らなければ、いろいろなことができないという話になった。知林ヶ島も含めて、若干、緩和する方向で動いている。知林ヶ島は、宝にしなければならない。遊歩道を含めて何とかしたい。また、休暇村のあった部分も荒れているので、入口部分も何とかしなければならないと思う。

篤姫のときには、宿泊だけで160億円ぐらいの経済効果があった。しかし、どんどん減っていった。日本の人口が減り、旅行をする人も少なくなった。一方で、外国人が増えてきた。外国人はファッションで刺青をしている人もおり、温泉に入ることができない。また、宗教上、裸にならない人もいる。そこで、ヘルシーランドの辺りに水着で入れ、外国人も指宿の温泉を楽しめるような所を造ったらどうかということが、地熱の恵み活用プロジェクトであった。地熱発電は手段であり、目的は観光客が指宿の温泉を楽しめるようにということである。外国人にとっての温泉は、お茶を飲んだり、男女もお年寄りも一緒に楽しんだりと社交の場である。

あと一つの目的は、6次産業化であった。盆の時期にはオクラ等を捨てる方もいると思う。そういうものをパウダーにするなど、地熱を使って付加価値を付けようというものであった。

地熱は、温泉業者やホテル関係者だけでなく市民みんなの財産である。そこで、温泉は市が管理して、使った分、もうかった分の何%かを市に収めてもらい基金にして、教育や介護、福祉に役立てようというのが、地方創生の中の地熱の恵み活用プロジェクトであった。しかし、十分に説明がされていないという意見を、議会や語る会でもいただいた。市民の皆さんの意見を謙虚に聞きながら今後の方向性を考えていきたい。

山川の九電の地熱発電所は20年ぐらいなるが、毎月、綿密なデータを出しながら温泉に影響が出ないようにしている。その周辺で1年前から調査を行い、今回はその調査を基に試験井を掘り、影響がないか、そして地熱発電につながるかどうか試験をしようとしたが、これも残念ながら認められなかったの、またいろいろと考えていきたい。

これから人口は減り、働く人も減り、税収もどんどん下がっていく。一方では、医療費がどんどん上がっていく。ここ4～5年で、みなさんの税金から国民健康保険に15億円以上を繰り入れている。それだけあれば、この辺りの道路も整備できただろう。そこで、健幸のまちをつくり、医療費を下げようとしている。そこで、温泉やいろいろなことを事業として進めていきたいと思っている。様々な意見をいただきたい。

【市民】

市は地籍調査を行っているが、課税をすることを目的に面積を出して、早く課税対象をしっかりとってもらいたい。また、固定資産税を10年も支払っていない所は、市が取り上げるようなことはできないのか。

<建設部長>

地籍調査は、境界を定め、面積、地目などを正確なものにするために行っている事業である。初年度に立合いをしていただき境界を定める作業、2年目に閲覧による確認、3年目に法務局に出して登記が完了と約3年を要する。しかし、現在問題になっているのが、お互いの境界が決まらない筆界未定である。市の方でもなるべく境界を決めていただきたいということで、お互いの話合いの時間が非常に長くかかっている状況である。なるべく早めに、新しい登記にしていけるよう努力していきたい。

<市長>

地籍調査をすることで、仲の良かった隣近所の仲が悪くなったりと大変である。いろいろな条例を作ったりしながら、ある程度強制力を持ったような形で地籍もしていかなければ駄目だろうと思う。

【市民】

今日の会は、「みんなで語ろ会」という名称である。語ろう会なら分かるが語ろ会という表現はふざけている。きちんとした日本語の表現にしてもらいたい。

もう一つは、市長自身が議会に提案して可決された地熱のことを、実行せずに凍結するというのはどういうことか。

<市長>

環境省など、いろいろな省庁の許可の問題もあった。環境省は、住民の理解が得られないと許可をしないということであった。そして議会は、十分に説明をしていないということで、いろいろな予算を否決した。例えば、国の100%補助事業であった調査のための井戸3本、7億8,000万円は通らず、1本だけ掘らせてもらいたいということで4億円ぐらいは通ったが、議会では市民は知らないという意見が大勢を占めた。そして、手続きや説明が十分ではないということで、いろいろな委員会の中で否決された。そこで、いったん凍結をして、もう一度説明をして理解を求める必要があるということで、本当に苦渋の決断であった。申し訳なく思う。

語ろ会の名称については、また検討させてもらいたい。語ろ会というのは、みんなで気楽にかたろかいということで付けた会である。意見としてお聞きしたい。

【市民】

医療費がどんどん高くなってきているが、保健センターや保健所、学校の保健の先生、病院の看護師などPRが足りないのではないか。病院に行く必要がない方が、病院に行くことが多いという話も聞く。各自が自然治癒力を持っており、よほどのことがない限り病院に行く必要はないと思っている。そのことについての啓発を、どの程度しているのか。

そして、廃屋の問題や、個人の権利ばかり主張していても世の中は成り立たないと思う。地籍も半年から1年以内に結論を出すよう、客観的に適切な判断をする第三者委員会を充実させて、半強制的に実施してもらいたい。個人の権利を認めすぎているのではないだろうか。公共の福祉に反することを主張して、みんなを困らせている場面もたくさんある。

<市長>

池田湖の売店の所に、1軒だけ崩れかかった家があったので壊した。これでは危ない、道路が塞がれて事故があったら大変だということで、行政ではなく地域の方々が話し合っただけで壊した例もある。廃屋の問題は、これから大変な問題になる。公共の福祉、社会のバランスだと思う。いろいろな場で、市民にわかってもらう努力をしたいと思う。今は様々な価値観や考えを持った方々がおり、裁判をするなど非常に難しく、慎重にならなければならない部分でもある。

それと、病院の待合室が社交の場になっていることもある。不適切な医療をなくすよう、PRをしていきたい。

【市民】

なのはな館はどうしても解体できないという話も聞くが、実際のところはどうなっているのか。地熱やサッカー場も大切であるが、前向きな部分だけでなく後ろも振り返りながら、同時進行でしてもらいたい。

<市長>

なのはな館については、市の考え方ではなく県の考え方が変わった。最初は一部を壊して、その跡に市民会館等を造るというような話し合いになっていた。しかし、知事を含めて県の担当者が、設計をした高崎さんに東京まで会いに行ったところ、建築物としての国際的な評価が高いことがわかり、指宿の文化レベルを疑われるということで、しばらく県に任せてもらいたいということであった。

第1回目の計画を立てたときには、全部を残す計画で県に出した。ところが、後ろを壊す、後ろを残すと変わった。市だけが判断できるものであれば、議会における答弁も同じような形でできるが、県との絡みもあり二転・三転した。建物にも著作権があり、県との意見交換をもっと行い、そのときどきに対応しなければならない。それが、なのはな館の一番の問題点であった。皆さんが納得できるような方向性で解決できるように探っていきたい。

サッカー場の問題についても、いろいろと意見があることは承知している。今、サッカー場は介護施設が造る時代になった。先日視察を行った所では老健施設の横にサッカー場を造り、子どもたちがサッカーをする様子をベランダから見て元気になる。そして、サッカーが済んだら車椅子等で、その芝生の上に寝転ばされたら元気になる。クラブハウスについては、年間70回ほどは地区の自治会の話合い、太鼓の練習、踊りの練習など社会貢献として地域に開放している。これからのサッカー場は一流選手だけのものではなく、バックネット裏等については、車椅子等で行って応援ができたり、ご飯を食べながら応援ができたり、自由に利用できたりと、そのような形で考えているところである。

指宿には、Jリーグのトップチームがキャンプに来る。ところが、市にサッカー場がないため岩崎頼みである。先日、サッカー場のお願いに行ったところ、今だとオリンピック前でt o t oの補助も大きく、造るのであれば今だと思う。冬には浦和レッズ、柏レイソル、韓国の現代など、多くのチームがキャンプに来た。ところが、キャンプは同じ時期であり、複数を受け入れることができないため、市もそれなりのサッカー場を造る必要があるだろう。そのことで、経済効果がどの程度あるかという計算もしている。

陸上競技場を全天候型にする工事に4億いくら掛かったが、実際の一般財源は8,000万円程度しか使っていない。今回の中学校・高校の駅伝大会だけで、選手や保護者等の宿泊などによる1年間の経済効果は4,500万円～5,000万円と計算されている。全天候型にしたことで合宿も増え、大会もいつも指宿でしてくれるようになった。このようにして、施設を造るべきであるかどうかを慎重に検討していきたい。